人吉市立東間小学校創立１５０周年記念式典

校長　あいさつ

本日は、人吉市長　松岡　隼人様をはじめ、多数のご来賓のみなさま、そして保護者の皆様にご臨席を賜り、人吉市立東間小学校創立１５０周年記念式典を開催できますことに、心より感謝申し上げます。

また、本式典の開催まで様々なご尽力をいただきました椎葉会長をはじめ実行委員会の皆様、そして山本会長をはじめＰＴＡ役員の皆様のご苦労に重ねて感謝申し上げます。

さて、５・６年生のみなさん、これは何だと思いますか。

※　式典では、１００周年記念式典児童代表あいさつをされた椎屋彰様の木箱入りの巻物を子供たちに提示しています。

これは５０年前の創立１００周年記念式典の時に、「あきら」君という小学校６年生が児童代表としてあいさつを述べたときの巻物です。

「あきら」君は、５０年前の１００周年記念式典で東間小学校への思いを伝えてくれました。今、ここで、その時の「あきら」君を紹介します。

※　式典では、椎屋彰にご起立をいただき、ご紹介させていただいています。

ここにいらっしゃる方が、当時の６年生の「あきら」君です。椎屋彰さんです。

あきら君は、東間小学校を卒業された後、人吉市役所にご勤務され、東間小学校のＰＴＡ会長も務められました。その時に作られたものが校舎の運動場側に飾ってある創立〇〇年目という看板です。

あきら君は、卒業された後もこの人吉・球磨がよりよい地域になるように、東間小学校が素晴らしい学校になるようにと願いつつ、一生懸命に力を注がれました。

私たちは、その思いを受けて今、ここにいるのです。

椎屋様だけではありません。今日、ここにご臨席を賜ったご来賓の皆様、地域の皆様、また５０年も前から、その時代時代に、未来の東間小学校への思いを寄せて努力していただいた方々のご尽力のおかげで、今、私たちはここに存在するのです。この５０年間の、そして１５０年間の人々の思いを受けて、私たちは今、ここに存在しています。

５０年前の６年生である「あきら」君と５０年後の同じ６年生が、今このとき、同じ時間に、同じ空間に存在すること、それは奇跡だとも思えます。私は、この１５０周年記念式典とは、この５０年間、１５０年間、東間小学校を大切にしていただいた数多くの皆様の気持ちに思いを寄せ、心から感謝する場であると考えています。

私自身、お顔も想像することはできませんが、これまで東間小学校のためにご尽力をいただいた皆様に、児童の皆さんとともに心から感謝申し上げます。

さて、今日の１５０周年記念式典にはもう一つの意味があると思っています。

みなさんは今年の運動会の競技の中で、「至誠」「出藍」「撝謙」という３つの玉を受け取りました。そうです。もう一つの意味とは、これまでつないでいただいた東間小学校の心を受け取り、未来へとつないでいくという役目を担うことです。いうならば、今、「あきら」君からのバトンが今、受け渡されたのです。バトンタッチの式でもあります。

今から５０年後の東間小学校２００周年記念式典の時、今、本校の１年生は５７歳、６年生は６２歳となります。つまり、これからの５０年間の時代を切り拓いていくのは、あなたたちの役目です。その時、あなたたちはどこに住んでいるのでしょうか。そして、どんな時代を築いているのでしょうか。その時、この東間小学校には、「至誠」「出藍」「撝謙」という３つの玉、心はつながれているでしょうか。

その時の姿をきっと私は見ることはできないでしょう。

だからこそ、ここにいる君たちに、今日ご臨席を賜ったご来賓の皆様の思いとともに、皆さんに託します。

今日の１５０周年記念式典は、これまでの時代をつないでいただいた皆様に感謝し、心を受け継ぎ、これからの時代をよりよい時代に切り拓いていく誓いを新たにする場であると考えます。

最後に、創立２００周年の時に、ここにいる子供たちが幸せな時代を生きていることを願いつつ、本日ご臨席を賜った第４５代校長・上谷洋一様、第４６代校長・漆野辰夫様、第４７代校長・大平和明様、第５１

代校長・志波典明様、第５２代校長・恒松昭様他、歴代校長の思いを重ね、第５３代東間小学校長としての挨拶とします。

令和５年１０月１日

人吉市立東間小学校長　渕上一博